

## 第3回中播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日時 令和3年5月28日（金）16:00～17:40

2 場所 姫路職員福利センター3階 大会議室

### 3 意見交換の内容

#### 〈委員〉

柱立て案について、この会議は非常に話題が多岐に渡り、様々な意見があるなかで、良くまとめているという印象を持った。柱立て案の4つの将来像（交流、活力、つながり、ふるさと）について、「交流」は、私自身もこの部会に所属していたため、様々な意見があるなかで、「多様な地域から、様々な個性を持った多様な人を集めましょう」という方向性は理解できた。次の「活力」では、産業や農林水産業をはじめとする非常に魅力的な活力をつくっていき、求心力にしていこうということが読み取れる。これは「交流」や人を集めることにもつながると改めて感じた。「つながり」については、中播磨は祭りが歴史的にも文化的にも非常に大きな特徴にもなっており、私の経験から言っても、遠くふるさとを離れていても、祭りの時だけは帰って来る。そして、帰ると非常に温かく迎えてくれるというところで、祭りは「つながり」の一番大きな元だと感じている。

「交流」、「活力」では、どうしても多様化と言うとバラバラ感が出てしまうが、祭りなどでまとめていくことで、「つながり」の大きな元になっていると思う。最後の「ふるさと」は、そのように集まってきてくれた人が、新しい人でも、ふるさとだと感じてくれるような、4つの施策を充実させていくことで、上手くまとまるという印象を持った。また、基本姿勢の世界遺産を「ひと」と読ませることについては、最初は少し違和感があったが、骨子案などを読み、先ほどの説明を聞くと、逆にぱっと見た時に目を引くキャッチーなコピーで良いと思った。

見せ方については、広報紙やパンフレットなど様々なものを準備すると思うが、ビジョンを我が事として感じてもらうためには、一生懸命考えてもらう仕組みをつくった方が良い。30年後に社会の中心となる今の子どもたちに、将来どうなりたいか夢を描いてもらうため、例えば小学校や中学校でディスカッションをして発表してもらうような仕組みや、また景品等をつけたコンテストを開催するなど、子どもたちが考えて気づきを得られるような機会をつくっていくと、ビジョンが広まりやすいと思う。

#### 〈委員〉

中播磨らしさということで世界遺産が出てきたことは当然のことと思う一方で、マイナス思考で考えると「やはりこれしかないか」という思いもある。これは外せないのだろうと思うが、この世界遺産の扱いが、どちらに傾かによって随分方向性も変わると感じた。

全体的に骨子案については問題を感じていないが、一つ物足りないと思うことは、これから情報化時代が進んでいくなかで、情報ツールについて一切触れられていないとこ

ろである。例えば交通のところであっても構わないので、「情報ツールや交通が地域を守り支える中播磨」という形でもいいと思う。その情報ツールがおそらく、自治会の情報発信ツールや、ふるさと意識の醸成ツールになるなど、すべてに横軸として関わってくる気がしている。どこかで「情報」という言葉がほしいと寂しさを感じた。

新ビジョンをどうみんなに広め、認識してもらうかは非常に難しい問題であるが、紙ベースは最低限でいいと思う。先ほども言われたが、やはり子どもたちに知ってもらい、考えてもらうことは大事だと思う。また、出来るだけ検索キーワードとして引っかかりやすい手法を考える必要がある。情報は毎日大量に出てくるため、年数とともに消えてしまいそうな気がする。そこをどうやっていくのかというテクニカルな問題も工夫が必要である。

#### 〈委員〉

今の情報の話について、事務局で何か考えていることなどはあるか。

#### 〈事務局〉

今のところ柱には「情報」は入っていないため、検討させていただく。例えば、「交流」の将来像に、交流の呼び水として「情報発信」や「魅力発信」という柱を入れることも考えられる。意欲的に情報発信していく姿勢と合わせて、委員からも指摘があったツールの活用という手法について取り入れることも、一つのやり方として考えられる。

#### 〈委員〉

私はもともと島の育ちで漁業という自然界を相手にしている関係があり、皆さんと少し意見が違うところがあると思うが、大筋で骨子案には賛成である。

「地域コミュニティ」分野について、祭りをつながるご近所の連携だが、私の地元では、もともと田舎な島であるため、以前はとても結束力があり、地元の祭りがあると、みんなが島に帰ってくるというつながりがあった。しかし、最近はイベントをするにしても、まとまりがつかないのが現状である。つながっていないと便利が悪いため、それなりに地域コミュニティはつながってはいるが、我々の若い頃と違い、どんどん崩れていっている。何も対策をしないのではなく、歯止めをかけて、その次の子育てにもつなげようと思うと、島や漁業という関係では、体験がとても重要である。体験をして初めて島の良さが分かる。私たちの島に限らず、農業などでも、体験をさせて初めてその土地や自分たちの生まれ育ったところがいかに楽しいかを認識させ、また自立できるように持っていくか、そこが重要だと思っている。体験せずに、何も知らないまま大人になってしまう子どもたちが今後増えていくと、将来、子どもたち自身が困ると思う。

また、島は周りが海のため、安全安心の防災について気になっている。例えば、漁に出て、海の上で急に脳梗塞や心筋梗塞を起こした場合、一刻一秒を争う病気の中で、都会と違い救急隊員がすぐに来ることができない。今のシステムは、まず海上保安庁に連絡し、海上保安庁から救急隊員に状況を説明してから迎えに来てもらい、大きな病院に入れてもらうが、すごく時間がかかっている。そのあたりをもう少し迅速にできないだろうか、海の上での安全安心をもう少し何とかできないだろうかと思っている。現在のコロナ禍も、最初は大きな客船であった。陸上と違い、船の上や海の上の安全安心は、いくら議論しても万全を期すことは難しいと思うが、そのあたりのことを懸念している。

## 〈委員〉

骨子案について、10年前と今と状況があまり変わっていないと感じたが、それは見せ方の工夫につながっていくのだろうという第一印象を持った。

柱立て案は、細かいことを言うと限りがないので、少し気が付いたところだけ、私の考えを言わせていただく。『みんなまとめて「おかえり」中播磨』を、『みんなおかえり中播磨』と短くしてもいいと思う。「多様な働き方」分野の『自分らしい働き方でみんな活躍中播磨』を、『自分らしい働き方で元気ハツラツ中播磨』でもいいと思う。「教育」分野では、入れ替えただけだが『個性爆発！チャレンジ応援中播磨』に、そして『ステキなご近所さんで支え合う「つながり」中播磨』も、「つながる絆」としてもいいと思った。

全体的にはこれまで議論した部分が、上手く反映されて素晴らしいと思うが、現行ビジョン策定時に検討された部分と、今の新ビジョンで検討している内容が、主なところで10年間あまり変わっていない気がする。これを変えていくには30年先に大人になる子どもたちにつないでいけるような情報発信の仕方や、理解してもらえるようなシステムをつくっていく必要がある。

## 〈委員〉

骨子案について、大きな課題として人口減少は以前から言われていたところだが、『みんなまとめて「おかえり」中播磨』の内容を見ると関係人口という形で謳われているため、少し意味が違ってきている。書きぶりの問題かもしれないが、移住者や、基本的な人口を増やしていくところが少し弱いと感じている。実際、これまで検討してもなかなか人口は増えていかず、減少の一途を辿っているので、仕方のない部分もあるかもしれないが、少しでも人口減少に歯止めを掛けることを何か入れられないかを感じている。同じく『みんなまとめて「おかえり」中播磨』の本文についても、「地元に残っている人」や「秋祭りに参加するために帰省する人」よりも「新しく来る人」を先に持ってくる方が、インパクトが出るのではないかと思う。実際、取組も限られ、なかなか難しいとは思いますが、できれば大きな課題である人口減少については、こうした書きぶりを少し検討していただきたい。

見せ方については、30年先を見越したビジョンであることから、特に若い人、小学生・中学生、場合によっては高校生に、分かりやすく見せることができるようなもの、あるいは授業で使ってもらえるようなものを少し考えていただきたい。

私たち成人向けのものとは別に、子ども向け、高齢者向けのものもあってもいいと思う。人生100年時代なので、70代や80代の人にも見やすい手立てをとり、配り方等も含めて世代別に少しアレンジしてはどうか。将来、どうなっていくかを考えてもらえるようなものを配布できればいいと思う。こうしたことは来年以降の話になると思うが、継続的に取り組んでいければいいと感じている。

## 〈委員〉

今までの議論のキーワードを上手く散りばめた16の方向性だと思う。これまで議論をしてきて、「人」と「地域」が一番のキーワードであり、特に姫路・中播磨は「世界遺産」、そして「多様な個性」がポイントになると思うので、特段、内容に関して違和感を覚えるところはない。平成23年に改訂した現行ビジョンも「人」と「地域」をキーワードに

しており、10年前から続いているということは、やはり「人」の魅力と「地域」の魅力  
を押し出すことが、一番大事だと感じている。柱立て案は、「交流」、「活力」、「つながり」、  
「ふるさと」というキーワードがついており、良いと思う。

見せ方については、先ほど意見もあったように、紙の媒体は最小限でいい。やはりイ  
ンターネットを使ったような見せ方を中心にすることが大事である。また、あまり堅苦  
しくすると見ている人も、内容を見ようかなというところまでいかないと思うので、例  
えば、SDGsのアイコンようにすごくカラフルでポップな感じで見せたり、キーワードだ  
けをそこに載せて、分かりやすく並べたりすることで、「何だろう?」「触ってみたいな」  
「内容を見てみたいな」という見せ方をし、詳しくは本文へと誘導していく。小学生で  
も興味を持てるような、ビジュアルやポップさが必要だと思う。

#### 〈委員〉

骨子案について、全体的な感想としては読み手に分かりやすく丁寧にまとめてあり、  
SDGsに関する内容が随所に生かされているものになっていて良いと思う。興味のある分  
野について、更に詳しい内容へと、進めて読みたいものになっている。手にとって読ん  
だ人が、自分に照らし合わせて、「あれもかな?これもそうだな」と思いを広げ、地域で  
も生かせる形になっていると思う。

内容については、資料3の10ページ目で『祭りでつながる!ご近所力No.1の中播磨』  
の取組アイデア案として、肝心の祭りが出てこない。やはり播州の祭りは欠かせない伝  
統的な行事で、自慢すべき地域資源であると思うので、祭りについての例示を加えては  
どうかというのが一点。もう一点は、同じく10ページ目の『ステキなご近所さんで支え  
合う「つながり」中播磨』のどこかの取組の方向性の中に、「個々が様々なサードプレイ  
スをつくることで、心身のリフレッシュ、自己肯定意識の向上を図ることができ、孤独  
感や自殺、過労死などの減少につながる」といった内容を加えてみてはどうか。

見せ方では、完成後のPR展開についての意見になるが、やはり若い世代への発信が大  
事であり、まずSNSやYouTubeなどインターネットを活用して、関連するイベントなど  
も含めて、県民に広く周知し、県のホームページへ誘導することで、新地域ビジョンに関  
心を持ってもらってはどうか。

また発信する際のターゲットをしっかりと分ける。そのテーマに関連する団体に、興味  
や関心を持ってほしい内容を発信する。例えば、30年後に大人になる小中学生、または  
子育て世代に関心を持ってもらう工夫として、夏休みの宿題に新地域ビジョンの中から、  
いくつかのテーマについて標語やポスターを募集する。そしてその応募のあった作品を  
活用して、例えばティッシュなど、ポスターを使った広報物を作り、広く配布すること  
で、県民にビジョンを周知し、新地域ビジョンに関心を持ってもらってはどうか。また子  
ども向けに標語やポスターの募集をする際にも、チラシだけではなく、テーマの内容を  
分かりやすく記載した下敷きなどを付けて、今後も目の届く所で活用してもらうことで、  
身近な内容として感じてもらう。また、学校の授業などでも地域について考える授業と  
して、このビジョンを取り入れてもらうことで、子育て世代にも今後必要な課題だとい  
うことを認識してもらい、新地域ビジョンに興味を持ってもらってはどうか。

## 〈委員〉

柱立て案において『多様な人が行き交う「交流」中播磨』の中に入っている多文化共生については、交流の意味合いもあるが、互いの文化を認め合いながらともに生きるということなので、地域で生きるというカテゴリーが相応しいと思う。そのため、多文化共生は「交流」ではなく、『ステキなご近所さんで支え合う「つながり」中播磨』の中に入るべきではないか。また、多文化共生を「つながり」に入れる場合、「つながり」が5つの分野になり、多いということであれば、例えば「地域福祉・ユニバーサル」と「健康づくり・医療」の分野を一本化して、「つながり」の分野数を4つのまま保つのはどうか。

キャッチコピーについては、基本姿勢『多様な個性（ちいき）に、世界遺産（ひと）が輝く中播磨』はふりがなの部分を見れば違和感はないが、漢字を見た時、最初は違和感を覚える。その違和感が、先ほど他の委員が言われたキャッチーさにつながるのかもしれないが、そういった違和感を最初に覚えた。あと、30年後もまだこの地域は世界遺産の姫路城を中心に据えていくというのも少し物足りなさを感じる。また、同じく多文化共生のキャッチコピーである『多文化とともに生きる中播磨』という言葉は、日本語としておかしいので変えたほうがいい。そして、資料3の5ページの同じく『多文化とともに生きる中播磨』の本文について、事務局案として「外国人とともに暮らす生活者として地域で受け入れる」と書いているが、それはやって当たり前のことであり、これを取組の方向性として入れるのは意識が低いと思うので、少し違う表現にしたほうがいい。

見せ方については、良い案はなかなか思い浮かばないが、しっかり県や市町、県民が一緒になって「こうやっていくんだ」という意気込みが伝われば、共感を得られるのではないかと思う。

## 〈委員〉

基本姿勢のキャッチフレーズについては、最初に見た時に、世界遺産、その次に、日本遺産もあるなと思った。中播磨全体で考えた時には、全体を通してするのは日本遺産であるという思いが少しある。だが、やはり姫路城はランドマークであり、みんなの心のシンボリックなものであることを考えると、世界遺産という一言で括ってもいいかと感じた。他の委員からも発言があったが、30年後の「情報」についても少し記載する方がいいと感じた。もう一点は、「つながり」という言葉なのか、「絆」という言葉がいいのか、どちらなのかと少し迷ったところがある。これまでは「つながり」という言葉だったのかもしれないが、震災以降、もっと心の中の一番深いところのつながりを求めるのであれば、「絆」という言葉が適しているのではないかとも思った。やはりここは県の将来構想試案が「つながり」という言葉を使っているので、そのあたりと連携しているのかと思いながら、どちらが適当なのか少し考えさせられた。

見せ方の部分にもつながってくると思うが、SDGsについては各企業、自治体ともに取組を深めてきているので、SDGsのアイコンを入れ込んでいくことも大切だと思う。それに当てはめた結果、新ビジョンの取組の方向性がSDGsの17の目標をカバーできていないのであれば、その分野は必要であれば補強をした方がいいかもしれない。

次に見せ方については、30年後に社会の中心となる子どもたちが見て、イメージとして捉えられるよう、イラストを多用するのも一つの方法だと思う。少女漫画家の藤原ヒ

ロさんが神河町出身であるため、町のホームページには藤原さんに描いてもらったイラストを掲載している。そうしたイラストを使った見せ方も必要だと思う。また、少し上の年代になってくると、自分の地域やまちの代表的な風景が出ていると、「見てみようかな」ということにつながってくるので、そういったところから、親近感を持ってもらう方法もあると思う。

#### 〈委員〉

最初に見た時、基本姿勢の『多様な個性（ちいき）に、世界遺産（ひと）が輝く中播磨』がいまいち分かりにくかった。説明を聞くと分かったが、その意味合いが説明を受けなくても分かるような書き方にすると思う。内容的には、意味合いが非常に良いと思う。私はビジョン委員を6年間やっているが、平成23年度に改訂された現行ビジョンの内容も3年くらいは全く頭に入らなかった。やっと今、頭に入ってきて、新ビジョンの検討を行いながら見ると、非常によく分かるようになった。私が疎いだけかもしれないが、みんなに理解してもらうには、それくらい時間が掛かることが考えられる。

見せ方については、綺麗にまとめるなどの見せ方もさることながら、それをどのように使うかということも大事である。ビジョンを見て、中播磨あるいは兵庫県の将来がどのようなになるかという知識を得るといふ活用の仕方に加えて、私のように自分の住む地域のビジョンづくりの参考にするという活用の仕方もあると思う。自分の地域にはこういうことがあるとチェックをしたり、また地域の特性に合う将来像を見据えて事業展開を検討したりする際の一つの参考書になると思う。実際に取り組んでみると、ビジョンがなかったら全然思いつきもしないアイデアが出てきたりする。自分の地域を見つめ直すヒントがビジョンに出てくると活用されやすいと思う。私の地域のビジョンづくりで今問題なのは、メンバー集めである。「こういう団体には、こういうメンバーの集め方をしたらどうか」だったり、「様々なアンケートをとりながら集めたらどうか」等のノウハウや、ビジョンづくりに至るまでの動機づけにつながることも少し書いてあると、使う人にとって参考になるのではないかな。見せ方も大事だが、使い方も大事。使い方についても、見て内容を勉強する人向けと、実際にそれを自分でやってみようという人向けの、2つのタイプの使い方を考えれば良いと思う。

#### 〈委員〉

最初に基本姿勢を見た時は驚いた。それだけインパクトがあるキャッチコピーだと思っている。読み方が強引ではないかと思ったが、事務局からの説明を聞いて理解はできた。このキャッチコピーのしっかりした説明は必要だと思う。中播磨の特徴である「世界遺産」という言葉は入れるべきだと思うが、姫路城という世界遺産について、ビジョンの中で何か打ち出しているかといえば、そうではない。『姫路城だけじゃない中播磨』の部分で、姫路城以外の滞在時間を確保するための取組などはあるが、姫路城の魅力を引き出すような施策が入っていない。それにも関わらず、基本姿勢のキャッチコピーに「世界遺産」という言葉が入っていることに少し違和感を覚えた。それから、分野の括り方について、「教育」分野の『チャレンジ応援！個性爆発中播磨』の取組の方向性やアイデア案を見ていると、地域コミュニティの色が濃いように思うので、どちらかというところ「つながり」の中に入れる方が良いと感じた。

キャッチコピーについては、すごく面白味があるとは思いますが、ひねりを加えているものとそのままのものが混ざっている。例えば、「交流・移住促進」分野の『みんなまとめて「おかえり」中播磨』は、すごく面白味があるが、「多文化共生」分野の『多文化とともに生きる中播磨』はそのままである。全体的に面白味のあるフレーズにするのであれば、それで統一した方がいいと思う。

また、感想になるが、骨子案の現状・課題について、「中途半端な都会」や「平均をとったような地域であるため、魅力を感じにくい」というのはその通りだと思う。ただ都会や田舎に憧れる人にとっては、魅力を感じにくいと思うが、逆の言い方をすると、ちょうど生活しやすい地域ということではないか。中播磨の魅力の一つとして、都会と田舎のバランスをとり続けていくことも大切である。

取組のアイデア案については、費用がかかる取組が様々あるが、財源にも限りがあるので、優先順位をつける必要がある。そして、これから実現していくためには強いリーダーシップが必要になってくるのではないかなと思う。特に『祭りでつながる！ご近所力 No.1 の中播磨』については、今はコロナ禍の影響で、夏祭りや秋祭りを実施しない地域が多く、若者がふるさとに帰ってくる機会が減っているため、ふるさと離れが進んでしまわないかという懸念がある。

最後に一つ意見なのだが、現状・課題として、空き家の問題が挙げられている。これは今後もさらに大きな課題になってくると思うが、これらの課題の解決に向けた取組案がほとんど入っていない。そこは必要なのではないかなと思う。例えば、資料3の取組アイデア案として、健全な空き家の活用が少しだけ触れられているが、管理不全の空き家対策はもっと強く打ち出した方がいいと思う。

次に見せ方については、映像で伝えるという方法もある。新地域ビジョンを紹介する動画を作って、YouTube や自治体の Web サイトに掲載するほか、中播磨地域のいろいろな施設で映像を流したら、広く伝えられるのではないかなと思う。

#### 〈委員〉

今回の柱立てのキャッチコピーのフレーズを見て、これまでの議論を踏まえて非常に攻めていると感じた。役所的ではない軟らかいフレーズを使っていて、非常に分かりやすく、県民にこれから広報をしていく上でとても良いと思った。キャッチコピーが固いと次を読んでもらえない。今日も様々な意見が出ているが、これまで議論をした内容を踏まえて作られていると感じた。

姫路市でもこの4月から2030年までの総合計画を策定したところだが、その中で最後に反映しきれなかったのではないかと少し感じているところが、先ほども意見が出た情報・デジタルの部分である。また、CO<sub>2</sub>のことや環境のゼロカーボンについても、総合計画を作っている間にもどんどん進んでいき、2030年に向けて少し弱かったのではないかと感じている。さらに今回は、2050年に向けてのビジョンであるため、デジタルが2050年に果たしてどこまで進んでいるのか分からず、非常に難しいところだと思う。今進んでいる分野だけではなく、これから高齢化や地域の問題、農業、漁業、ものづくりなど様々な分野でデジタルは関わってくることになると思うので、柱立てはこのままでもいいと思うが、取組の内容などで、今後、書き込めていけたらいいと感じている。

また環境についても、今の環境を守っていくことは、当然これからも力を入れていくことだが、国は、2050年までに二酸化酸素の実質排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティ等を推奨しているので、産業や水素のことなども、これからの進み具合を踏まえて、書いていけたらいいと感じた。

見せ方については、これからいかに見てもらうか、読んでもらうかが大事だと思う。姫路市でもYouTube等で発信はしているが、小学生、中学生、高校生などこれから2050年に向けての世代にできるだけ見てもらうために、見てもらいやすいような、また自分のこととして考えてもらえるような仕掛けを考えていく必要がある。

#### 〈委員〉

資料については、何も言うことはないが、最近ずっと思うこととして、新ビジョンが展望する2050年は、やはり環境が一番大きな問題だと思う。確か2010年にCOP16において、産業革命後の気温上昇を2℃以内に抑えないと大変なことが起こると言われた。今の資本主義は必ず方向転換しないといけない。例えば、最近の流行でいうと、山口周さんなどがマルクスを持ち出して言っていたが、それはまさに避けて通れない問題だと思う。中播磨だけで何になるのかという考え方もあるが、中播磨だけでも、例えば、環境に対しての何らかの先進地域としてアピールをすることも、私は面白いと思う。実際のところ、我々の生活も変えていかないといけない。例えば、先進国、特に日本は、美食が蔓延しているので、A5の牛肉なども人気があるが、実は牛肉をたくさん食べるということは、水資源をどんどん失っていついていくということである。2050年には薄いサーロインステーキ1枚が10万円以上になるというシミュレーションもある。本当に裕福な人しか買えない。大きな話になったが、少し環境のことを入れてみても面白いと思った。

また、中播磨＝中途半端な都会というのは自虐的過ぎると思う。中播磨は一つのエリアとして、何かもっとメッセージを発信できないかと思う。中播磨はやはり東京や大阪を意識し、県内では神戸を意識している。例えば、中播磨の姫路はリトル神戸になりたいのか。姫路には姫路なりの中播磨の形を考えたらどうかと思う。

最後に、行政は、時間やお金を掛けて新たなものをつくり出すこともいいが、例えば産業振興において人や企業を集めるために、総論として「中播磨は素晴らしいですよ」と言ったとしても、具体的には何だろうということになる。私の会社は、兵庫県では、ひょうご No.1 ものづくり大賞やひょうごオンリーワン企業認定など様々な賞をもらっている。だが、本社がある姫路市や、工場があるたつの市からは何もない。それにも関わらず経済産業省からも賞をもらっているため、他府県から割と連絡があり、大学からも講義依頼がある。せっかく県と市町が一緒に取り組むのであれば、お互いの持っている資源をもっとアピールできる場があればいいと思う。例えば、駅のエントランスに「オンリーワン企業や地域未来牽引企業はこれだけありますよ」ということでカテゴリーなども掲示すると、同じ兵庫県の人や姫路に住んでいる学生なども「すごいね」と、もしかすると振り向くかもしれない。これは私の会社の例を一つ挙げただけだが、他にも様々なジャンルで同様のことは多くあると思う。資源があるのに、本当に残念である。例えば、姫路は、椎名麟三という有名な小説家を輩出し、書写には文学碑もあるが、今の姫路市の若い世代にはほとんど知られていないので、もったいないなと思う。



## 〈委員〉

中身よりも見せ方、見せ方よりも使い方の方が重要だと思う。その観点からだが、先ほど委員から知識として、また各地区で生かしていく、お手本にしていくという話があった。それもあると思うが、SDGsのような使い方が良いのではないかと思う。ご存知かと思うが、SDGsでは可愛らしいアイコンを使っており、これはビジョンの16の取組の方向性に似ているところがあるが、使い方が全然違う。SDGsは、すべての国や政府機関、企業、NPOなどあらゆる人にとっての行動目標であり、自分たちの活動は世界の目標のこの部分を担っているということが自覚出来るような、あるいはそれを維持できるような使い方をされている。こうした使い方を参考にしていけば良いのではないか。

例えば、新ビジョンの16の取組の方向性についても、SDGsと同じように16のアイコンを作り、取組の方向性に該当する具体的な優れた事例を取り上げ、発信していく。それを見て、自分たちがやっていることは、ビジョンに該当することなのかと自覚でき、応援されているような気持ちになるのではないかと思う。ビジョンの文章を読む人はほとんどいないと思う。だが、SDGsのように目標を提示し、見てもらい、自分たちの活動は、中播磨で目指していることの一部をきちんと担えていると思ってもらう。そして緩やかに行動を方向づけていく。これが目指しているところではないかと思う。そういう形で使っていく。文章を読む人は稀な人であり、どちらかというところ、文章を読ませるよりも、仕掛けをしていくことが重要なのではないかと思う。

ここからは暴論だが、中播磨地域ビジョンは「中播磨SDGsをやります」と言ったら、目を向けてくれる人もいると思う。例えば、SDGsプラス5という形で「これが世界の標準であるが、中播磨地域ビジョンはそれを超えてプラス5がある。そのプラス5はこれです」と発信していくとマスコミにも、面白いことをやっていると思ってもらえるのではないか。SDGsをモデルにすると、いろんなアイデアが出てくるのではないかと思う。

各目標の表現の仕方も、SDGsは、日本語も英語も動詞で終わっている。つまり、具体的な行動として書かれている。それに対して、ビジョンの取組の方向性は、「中播磨」で終わっている。例えば『みんなまとめて「おかえり」中播磨』などは、何となくイメージできるが、具体的に何をするのか、どういう行動がこれに関わるのかが、ぱっと出てこない。そういう意味で、動詞で終わらせる。例えば『姫路城だけじゃない中播磨』ではなく、『地域資源を磨く』のように具体的な行動を示す動詞で終わると、自分もそれをやっている、またはこれからやろうかと思ってもらえるのではないか。それが『姫路城だけじゃない中播磨』となると、自分の行動とどう関係するのか、見えにくいと思う。SDGsはすごく良い参考例なので、個人的には、参考にして、組み換えてもらうといいのではないかと思う。

## 〈委員〉

基本姿勢のキャッチコピーは、目を引き、あれ？と思わせるものだが、おそらく出席の委員や事務局は見慣れてしまっており、このキャッチコピーに至るロジックもよく分かりすぎているところがある。これが自画自賛になると恐ろしい。基本姿勢のキャッチコピーは、この先もずっと生き続けるものなので、この段階で事務局を中心に、知らない人や庁内でも意見の聴取をしてもらい、どう思うか尋ねてもらう方が安全かと思う。

「高齢化」と「人口減少」をどう考えるのかは大きな話題である。子育ての話も出てくるが、転入者ウェルカムという観点は、意外とあまりない。「祭りがあります」「つながりがあります」というのは、内向きな印象を与えかねない。今、地方への移住は注目されているが、中播磨は、他者に対して開放的なのかどうかは見えないところであり、分からないところだと思う。外国人を含めて、他地域の人も入ってきやすい雰囲気、包摂する雰囲気がどこかに出てくれば良いと思うので、検討していただきたい。

骨子案については、良くまとめられていると思うが、2ページの「中途半端な都会」と「姫路城だけの通過型観光」は、言葉としては違和感がある。自虐的なものもいいが、やはり現状分析とはいえ、書きようがあると思う。「姫路城だけの通過型観光」についても、ここで言うべきは「滞在型でない」というところだと思う。

見せ方については、本日、委員の皆さんが発言いただいた内容に大賛成である。例えば、SDGsのフレームを生かして分かりやすくしていくのは、当然大事だと思う。一方で、新聞媒体をはじめとするマスメディアにしっかり取り上げてもらえるような情報提供はしていくべきである。そこから高まる、深まる部分はあると思うため、既存メディアは大事にした方がいい。この先、未来フォーラムやパブリックコメントなど新ビジョンをお披露目する機会もあると思うので、既存メディア・新メディアともに働きかけをしっかりと行っていただきたい。

#### 〈委員〉

マスメディアが注目しないのは、売り込みの弱さだけでなく、ニュースバリューとして面白味がないことも原因である。先ほど話が出た藤原ヒロさんのように人を惹きつける力を持っている人がいるのであれば、そういうパワーを使っていくのも一つの手である。発信力のある人やインフルエンサー的な人を活用していくことは重要である。

(以上)